

見えないだけ 牟礼 慶子

一 新出漢字と読みがなを五回ずついいねいに書こう。(書き順は教科書 293 ページを見て覚える)

いしがき 石垣					
------------	--	--	--	--	--

二 教科書 16 ページ〜17 ページの詩を声に出して読んでみよう。(三回読んで、○をつけよう)

一回目		二回目		三回目	
-----	--	-----	--	-----	--

三 好きな表現を見つけて線を引こう。また、好きな理由を書こう。

<p>【好きな表現に線を引く】</p> <p>空の上には もっと青い空が浮かんでいる 波の底には もっと大きな海が眠っている 胸の奥で ことばはぐくんでいる優しい世界 次の垣根で 蕾をさし出している美しい季節 少し遠くで 待ちかねている新しい友達 あんなに確かに在るものが まだここからは見えないだけ</p>	<p>【好きな理由を書く】</p> <p>例 「もっと」の後に、見えているものよりさらに素晴らしいものを想像させてくれる 例 自分の中にあるもの、身近なもの、手の届くところにあるものとして、かけがえない、素晴らしいものがあるという考え方がよい</p> <p>※ 言葉の使い方や意味を踏まえた理由が書けるよ!</p> <p>から。</p>
--	--

四 感じたことが伝わるように読むための工夫を、ア〜エの中から二つ以上選んで書こう。

自分が表現したいものが伝わる工夫が書けるとよい

- ア 「もっと」の後 () を強く読み、「もっと」の前 () を弱く読む。
- イ () を速く読み、() をゆっくり読む。
- ウ 「あんなに確かに」 () の前に、間をとって読む。
- エ その他の工夫↓(第二連 () を、(第一連)の() を読む。

五 “四”で考えた工夫をして読むことができたか評価しよう。

〈評価する方法の例〉「録音して聞く」「自分の声を聴きながら読む」「家族に聞いてもらう」等

自分の評価

--

〈評価〉…A よくできた B だいたいできた C できなかった

アイスプラネット 椎名 誠

一。新出漢字と読みがなを五回ずつ書いてねいに書こう。(書き順は教科書 293 ページを見て覚える)

詰まる <small>つまる</small>	貼る <small>はる</small>	封筒 <small>ふうとう</small>	大股 <small>おおまた</small>					

二。辞書やインターネットを使って意味を調べたり、短文を書いたりしよう。

ページ	調べる言葉	調べた意味や、考えた短文
19	精密(せいみつ)	【意味】 【短文】 例いかにも得意げな顔をしてボールを投げる。
19	いかにも	【意味】 【短文】 例いかにも得意げな顔をしてボールを投げる。
20	蛇行(だこう)	【意味】
20	はるかに	【意味】 【短文】 例ナゴヤドームよりもはるかに広い土地だ。
22	めったに……ない	【意味】 【短文】 例おみくじで大吉が出ることはめったにない。
22	口実(こうじつ)	【意味】
23	極端(きよくたん)	【意味】

三。題名の「アイスプラネット」の正体は何ですか。作品を一読して分かったことを書こう。

※ 文章中の言葉や写真からうろたえたことについて書けるように。

例 北極に一年に一度できる小さな氷の惑星、北極海に浮かぶ大きな氷のかたまり 等

一 「僕」の言動に着目しながら本文を音読しよう。

二 本文に出てきた登場人物を書こう。 ※ 作品で使われている呼称で書けるよ！

僕（悠太）、へうちゃん（津田由起夫）、父、母、吉井、今村

三 「ぐうちゃん」に対する「僕」の気持ちの変化について、場面ごとにまとめた次の表のあいだにいるところをうめて完成させよう。 ※ 表現の前後の気持ちに着目して書けるよ！

場面	ページ・行	本文の表現	僕の気持ち
第一	19 ・ 11	○ そんな「ぐうちゃん」だけど、僕はぐうちゃんが大好きだ。	○ ぐうちゃんの話は文句なしにおもしろいし、宿題をするよりよっぽおもしろいから、大好き。
第二	20 ・ 20 22 ・ 14	○ うっかりぐうちゃんのほら話の世界に取り込まれてしまいそうになる。 ○ それを口実に逃げることにした。	○ 例 へうちゃんの話は怪しいけどおもろい。話に引きつけられる。 ○ 例 自分を子ども扱いしていると感じる。これ以上聞きたくない。
第三	23 ・ 6 24 ・ 3	○ むっとした。 ○ ぐうちゃんの部屋が急に寂しく感じられた。	○ 例 言い逃れをするのが気に入らない。これまで話を聞いてきたのがばからしい。 ○ 例 やはりへうちゃんがないのは寂しい。好きな気持ちはある。
第四	24 ・ 8	○ またからかわれてもいい。	○ たとえ、作り話でもいいから、またぐうちゃんの話を知りたいな。
第五	27 ・ 4	○ 封筒からは写真が二枚出てきた。	○ 例 へうちゃんの話は本当だった。(自分が見てきた不思議なものを僕にも伝えたかったんだ。)

一 第五場面(教科書25ページ・7行目)で、「ぐうちゃん」からの手紙を読んだ後に、「僕」が考えたことを想像して書こう。

※「これまでのお話が本当だったことが分かったこと、ぐうちゃんが伝えたかったことを関わらせて書けるように。」

例 ぐうちゃんは、自分が実際に見た不思議なものや美しいものを僕に伝えたかったんだ。僕が「ありえねえ」と思っていたことは、ありえないほど不思議で美しい、めったに出会えないものだった。だからこそ聞いていておもしろいと思えたんだ。僕も、将来、そんな不思議なものに出会えるように、勉強したり、本を読んだりしたい。そして、いつの日か、ぐうちゃんと一緒に見てみたいと思う。

漢字を確認しよう。

○ 新出漢字と読みがなを五回ずつ書いてねいに書こう。(書き順は教科書296ページを見て覚える)

雌花 めばな					
鎖でつなぐ くさり					
弾効 だんがい					
勃興 ぼつこう					
窒息 ちつき					
窯出し かまだ					
逸材 いっさい					
急逝 きゅうせい					

漢字を確認しよう。

○ 新出漢字と読みがなを五回ずつ書いてねいに書こう。(書き順は教科書296ページを見て覚える)

喫茶 きつさ					
喝破 かっぱ					
喚問 かんもん					

新しく習った漢字

1 次の——線部の言葉を読もう。【漢字の読み】

- ① ア うちの犬は雄だ。 「おす」
- ② ア 雌雄を決する時だ。 「じゆう
- ③ ア 脚光を浴びる。 「きゃくこう
- イ テーブルの脚 「あし
- ア 道路を封鎖する。 「ふうさ
- イ 彼の考えを封建的だ。 「ほうけんてき

2 次の——線部はへくが部首の漢字である。それぞれ
の熟語を読もう。【同じ部首の漢字】

- ① へくく
勘案 「かんあん」 弾劾 「だんがい」
勃発 「ぼっぱつ」
- ② へくく
突然 「とつぜん」 窒素 「ちっそ」
窯元 「かまもと」

③ へくく

- 逃亡 「とうぼう」 逸話 「いつわ」
- 逝去 「せいぎょ」

④ へくく

- 吹奏楽 「すいそうがく」 満喫 「まんぎつ」
- 一喝 「いっかつ」 喚起 「かんき」

新しく習う音訓

1 次の——線部の読みの違いに注意して、それぞれの
熟語を読もう。【複数の音読み】

- ① 音楽 「おんがく」 福音 「ふくいん」
- ② 仮面 「かめん」 仮病 「けびょう」
- ③ 散垢 「さんぽ」 垢合 「ぶあい」
- ④ 卵黄 「らんおう」 黄砂 「こうしゃ
- ⑤ 境界 「きょうがい」 境内 「けいだい」
- ⑥ 拾得物 「じゅうてつぶつ」 拾万円 「じゅうまんえん」